

今日から始める
自然観察

もっと仲良くなろう！ イヌノフグリの仲間たち



こばやし けんじ
小林健人

八王子市長池公園副園長
自然観察指導員

私たちの足元で、春の訪れをそっと教えてくれるオオイヌノフグリの花。青く可憐なその姿は、まるでこちらを見上げて微笑んでいるかのようです。そんな愛くるしい彼らと、今年はもっと仲良くなってみませんか？



オオイヌノフグリにやってきたムラサキシジミ。ハチやアブだけでなくチョウも飛んでくる。



オオイヌノフグリ(左)とコゴメイヌノフグリ(右)
花の大きさの違いが見分けのポイントになる。



イヌノフグリの名は、果実の形が犬のふぐり(いんのう)を連想させることに由来する。中には10～20粒ほどの種が詰まっている(フラサバソウは4粒程度)。

はんしよくかんしょう 繁殖干涉



在来種のイヌノフグリは、現在では見つけることが難しいほど激減。その要因として、オオイヌノフグリの花粉が本種の雌しべに送粉されることにより種子の生産が妨げられる、「繁殖干涉」による影響が明らかにされています。

みんなの足元にある身近な花

オオイヌノフグリは、西アジアを原産とするオオバコ科の外来植物です。外来植物といってもその歴史は非常に古く、日本へ初めて渡来したのは明治14年ごろと言われています。この140年の間に、私たちの日常の景色の中にすっかり溶け込んできました。

オオイヌノフグリの花のつくりはシンプルです。左右対称で4つに裂けた花の中央には、1本の雌しべを挟んで2本の雄しべが向き合っています。蜜を求めてやってきたアブやハチは雄しべにしがみつき、その際に葯の花粉が体に付着して別の花へと運ばれます。もし虫が来てくれなくても、花が閉じると同時に2本の雄しべがお辞儀をして自らの雌しべ(柱頭)に花粉を付着させる、同花受粉を行います。同花受粉でも、高い発芽率の正常な種子がつくられることが分かっています。

なお、果実が裂けてこぼれ落ちた種子は、アリのせいで運んだり、土と一緒に人間の靴底に付

イヌノフグリの仲間の見分け方

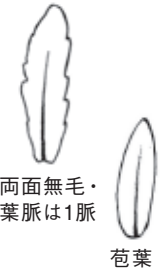
花の大きいものから順に、左から右に並んでいます。

5円玉の穴を使って大きさを確かめながら、観察してみましょう！

※★★★★ よくみかける
★★★ たまにみかける
★★ 珍しい



穴の大きさ
=5mm

種名	オオイヌノフグリ	コゴメイヌノフグリ	フラサバソウ (ツタノハイヌノフグリ)	イヌノフグリ	タチイヌノフグリ	ムシクサ
見つけやすさ	★★★★ ※	★	★★	★	★★★★	★★
花	 青・青紫 (8～10mm)	 白 (5mm)	 薄紫・青紫 (4～5mm)	 ピンク・赤紫 (3～4mm)	 青・ピンク・白 (3mm)	 白 (2.5mm)
花の柄	葉より長い	葉より長い	葉と同じくらい	葉と同じくらい	短くて見えない	短くて見えない
がく 萼と 果実	 果実の先はとがる	 果実に長い毛がある	 果実は無毛で萼に長毛	 果実の先はとがらない	 果実はハート型で有毛	 果実はハート型で無毛
葉	 ギザギザ4～8対 ・表面に毛	 ギザギザ3～5対 子葉 根元の子葉が、花の咲く頃まで残っている	 ギザギザ1～2対 子葉 根元の子葉が、花の咲く頃まで残っている	 ギザギザ2～4対 ・へりに毛	 両面有毛・葉脈は3～5脈 苞葉 花の周りにつく苞葉の形が他の葉と違う	 両面無毛・葉脈は1脈 苞葉 花の周りにつく苞葉の形が他の葉と違う
一言 メモ	あらゆる場所に群れて咲く大きな青い花	見られる場所がじわじわ増えている小ぶりの白い花	全身が毛むくじゃらの小さな青や白の花	めったに見つからない小さなピンクの花	立ち上がって生えるとても小さな青い花	湿った所に生える細い葉っぱの変わり者

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。

たりして広範囲に散布されます。ところで、オオイヌノフグリと同じクワガタソウ属には、よく似た種類がいくつかあり、道端の植え込みや畑の周りなど、身近な環境で見つけることができます。見分け方のポイントは花の大きさです。並んで咲いていればその差は一目瞭然ですが、単体で咲いている場合は、5円玉を花の上からそっと押し当ててみましょう。5円玉の穴からはみ出すサイズならオオイヌノフグリ、穴にすっぽりと収まるサイズならそれ以外の種類です。上の形態比較表を参考にしながら見分けにトライしてみましょう。一つ一つの部位をじっくり観察することで、同じように見えていた種類も全く別人に見えるのはすです。個性に富んだイヌノフグリ類の多様性をぜひ味わってみてください。